

聖仁会だより

2017

9. 22

Vol

13



編集 広報担当

医療法人社団聖仁会 白井聖仁会病院

〒270-1426 千葉県白井市笹塚3-25-2

TEL:047-491-3111 FAX:047-491-3128

URL: <http://sejinkai-shiroi.jp/>

E-mail: shiroi@sjkhp.com



// トピックス //

◆前立腺肥大症について

◆新任医師のご挨拶

◆新人職員紹介

◆部署紹介【薬剤科】

撮影場所
病院正面外観



特集

feature
articles

feature

articles

featu

articl

前立腺肥大症について

泌尿器科 布施 秀樹

中高年にとって排尿障害にうまく対応することは、快適なシニアライフを過ごすうえで非常に重要といえます。ここでは、男性に特有な前立腺肥大症について述べたいと思います。

尿は腎臓で生成され尿管を伝わって膀胱にたまっていきます。男性は膀胱の真下に前立腺という特有の臓器があり尿道につながっています。膀胱にうまくたまらなかつたり排尿がうまくいかなくなると様々な障害が生じてきます。膀胱にためることを蓄尿といいます。膀胱を緩めて蛇口である前立腺、尿道を収縮させることにより蓄尿が成り立ちます。排尿は逆に膀胱を収縮させて前立腺や尿道をゆるめるというメカニズムによりますが、いずれも交感神経と副交感神経がうまく調和をとって働きます。正常な排尿は、成人の場合、1回の量が200-400ml、1回あたりの時間は20-30秒、1日量は1000-1500mlで、回数は5-7回です。

蓄尿と排尿の不具合によっておこる症状は、蓄尿症状、排尿症状および排尿後症状に大別されます。蓄尿症状には、頻尿、尿意切迫感、尿失禁などがあります。特に夜1回以上の夜間頻尿は40歳以上の約70%の人が訴えています。排尿症状には、尿勢低下、排尿遅延、おなかに力を入れないと出ない腹圧排尿があります。排尿後症状には残尿感、男性に多い排尿後尿滴下があります。

feature

articles

articles



排尿障害の原因として男性の場合、前立腺肥大症が主な疾患です。前立腺がんや尿路結石、神経因性膀胱などの疾患もあります。加齢による膀胱収縮力の低下や尿道の筋肉の過緊張なども関係しています。前立腺が肥大すると尿の通り道を圧迫し尿の出が悪くなり、排尿症状を主体として蓄尿症状、排尿後症状などが出てきます。前立腺肥大症の患者数は厚労省調査によると約30年前の4倍近くに増え55歳以上の男性の5人に1人が有病者となっています。

feature
articles

前立腺肥大症のリスクファクターとしては、議論のあるところではありますが、加齢によるホルモンバランスの変化や性的活動に関係した社会的環境因子、脂質の多量摂取やメタボリックシンドローム、糖尿病、家族歴などが挙げられています。前立腺肥大症と前立腺がんはリスクファクターがある程度似ており、肥大症を予防することは、がんの予防にもつながってきます。

診断には通常の間診に加えて国際前立腺症状スコア、QOLスコアを用いて症状を点数化して客観的に評価します。さらに前立腺特異抗原（PSA）、直腸診、残尿測定、前立腺エコー、尿流測定などを行います。これらの結果から総合して全般的な重症度を判定し、治療方針を決めていきます。薬物療法、低侵襲性治療（レーザー手術など）、内視鏡手術などがあります。そのうちどれを選択するかは患者さんの希望も重視します。現在では、薬物療法が中心的な治療法となっており、前立腺や尿道の筋肉をリラックスさせ尿を出やすくさせる α 1受容体遮断薬をおもに使います。抗男性ホルモン剤、漢方薬、植物製剤を使うこともあります。

feature
articles

日常生活では、アルコールを控える、刺激の強い食品を避ける、下半身を冷やさないようにする、適度な運動を行うことなどが奨められます。

feature
articles



新任医師からのご挨拶



透析副部長

中 居 敏 明 なかい・としあき

担当科・専門

透析科
バスキュラーアクセス治療

資格・学会

日本泌尿器科学会 専門医
日本透析医学会
日本腎不全外科研究会
日本アクセス研究会

6月より透析センターに入職しました。

平成4年に山形大学を卒業し東邦大学泌尿器科講座に入局。以後、泌尿器科医師として種々の病院で勤務してきましたが10数年前より透析を専門として携わっています。

透析治療は本邦では進んでいて確立された医療のように思われていますが、いまだ個々によりどのような治療が最善か、広範囲な思慮が必要なものと思っています。

バスキュラーアクセス（シャント）など透析周辺外科に力を入れています。外科的治療においては出来るだけ痛みの少ない治療を心がけています。

透析治療という患者さんご自身が大変な負担を伴う医療ですので、最大限その苦痛を減らせる様、努力していきたいと思えます。



新任医師からのご挨拶



医員

小 杉 依 子 こすぎ・よりこ

担当科・専門

緩和ケア内科

資格・学会

日本内科学会認定医・専門医

日本呼吸器学会専門医

日本緩和医療学会

7月より白井聖仁会病院に入職しました小杉依子と申します。

着任以来、長峰副院長とともに、緩和ケア病棟の立ち上げに携わっております。

緩和ケア病棟は、「がんで苦しんでいる」患者さんのための病棟です。「最後の最後に入るところ」「なにもしないところ」「死の受容を強いられるところ」といったイメージもまだ根強く、悲壮な覚悟で相談に来られる方もおられますが、実際はずいぶん違います。それぞれの患者さんの段階やニーズに応じてのサポートを行い、その人らしく生きられること、生きていてよかったと思える日々を提供することを、大切にしています。一口にがん患者といっても、望みや困りごとは人それぞれです。それぞれの“わがまま”を「その人らしさ」として支えることを、日々みんなで考えています。できない理由を並べるよりも、どうしたらできるかを考え続けられるチームでありたいと思っています。

とはいえ、一つの病棟、一つの病院でできることは限られています。地域の住民の方々、関係機関との協力関係を築き、白井が「歳をとっても病気になっても安心」な地域へと育っていくために、微力ながら尽くしたいと思っております。

座右の銘：「正しいことをするか、親切なことをするか、どちらかを選ぶときには、親切を選ぶ。」



部署紹介

薬剤科

薬剤科はスタッフ7名（男性1名、女性6名）体制で業務を行っています。患者さんに安全でより効果的な薬物治療を受けて頂けるよう、業務に取り組んでいます。

病院における薬剤師の業務には調剤、抗がん剤の混合調製、病棟活動、医薬品情報、チーム医療への参画が挙げられます。患者さんに質の高い医療を提供できるよう、処方監査を行い、正確な調剤を行っています。また医師や看護師等、色々な職種のスタッフと連携を取りながら、病院の理念を基に、チーム医療の一端を担っています。お薬でご不明なことがありましたら、お気軽にお声がけ下さい。





医療法人社団聖仁会理念

患者さま一人ひとりのかけがえのない人生の支えとなれるように人に優しい医療・看護・介護を実践します

白井聖仁会病院基本方針

- 1 私たちは、患者さんの意思を尊重し、安心・安全な医療を提供します
- 2 私たちは、健康と生命を守るため日々研鑽に励み、質の高い医療を提供します
- 3 私たちは、地域と密に連携し、地域医療の発展に貢献できる病院を目指します
- 4 私たちは、時代に即し、地域のニーズに応えられる、満足度の高い病院を目指します
- 5 私たちは、心が通い合う、人生に夢と希望を抱ける医療を目指し、最善をつくします

患者さんの権利

- 1 安全で良質な医療を平等に受けることができます
- 2 人としての尊厳が保たれた医療を受けることができます
- 3 病気や治療について十分な説明を受けることができます
- 4 治療方針の決定に参加し、ご自身の意思で医療を選択することができます
- 5 病気あるいはその治療方法などについて、他の医師もしくは他の医療機関の意見を聞くことができます
- 6 病院に対して意見や要望を述べることができます
- 7 プライバシーは保護・尊重されます

患者さんの責務

- 1 適切な医療を受けるため、自らの健康状態等、必要とされる情報をできる限り正確に担当の医療者に伝える責務があります。
- 2 検査や治療について納得して合意したその方針に意欲を持って取り組む責務があります。
- 3 自分自身を含めた全ての患者さんが快適な環境で医療が受けられるよう、病院の規則や病院職員の指示を守る責務があります。
- 4 提供を受けた医療に対し、医療費を支払う責務があります。

白井聖仁会病院の診療実績（平成29年6月・7月・8月）

	6月	7月	8月
1日平均外来患者数	342	357	345
1日平均入院患者数	183	170	173
月間新患者数	411	449	513
月間急患者数	39	59	50

放射線検査	6月	7月	8月
一般撮影	2433	2455	2397
マルチスライスCT	214	195	265
1.5T MRI	107	107	86
透視	60	43	55
マンモグラフィ	43	177	122